

## 大阪体育大学教育学部 平成29年度野外活動実習報告

金子勝司・植木章三・竹内亮・曾根裕二・陳洋明

### A practical training report of outdoor activities in School of Education, Osaka University of Health and Sport Sciences

Shoji Kaneko, Shozoh Ueki, Ryo Takeuchi, Yuji Sone, Yomei Chin

#### 1. 諸言

大阪体育大学教育学部は、平成27年4月から開設され、「小学校教育コース」と「保健体育教育コース」の2つにわかれている。その履修カリキュラムに、3年次前期に開講する「野外教育実習（選択科目）」（以下、適宜「実習と略記」）があり、どちらのコースも取得可能となっている。そのプログラムの内容については、将来教員を目指す学生に必要な野外活動の基礎や楽しさを学ぶ機会としてプログラムを作成した。今回の実習は、海洋プログラムを含めた内容であり、主なねらいは、①マリンプログラムの技能と理論の習得、②野外活動のもつ教育的価値や生涯スポーツとしての価値の理解、③自然への興味関心を高め、教育の場としての自然の知見を深める、④組織的な集団生活を通して、豊かな人間関係、社会的態度の在り方について体験的に習得するといった内容である。参加を希望する学生

に対して、複数回行った事前ガイダンスにおいて、野外活動における趣旨と内容を説明し希望者を募った。結果、50名を超える参加希望があったが、CAP制の関係から36名の参加となった。今回の実習先について、教育現場に携わる人材育成の観点から、大阪府内の多くの小中学校が野外研修や実習として利用している社会教育施設といった理由から大阪府立青少年海洋センターで行うこととした。

よって本調査では、今回初めて実施した実習を通して、参加学生は何を学び教育的効果を生み出すことができたのかを理解するため、実施後に参加学生に行った質問紙に、今回のプログラムに対して感想や気づき、改善点等、いくつかの質問に回答してもらった。そこで得られた回答結果をもとに、学習効果の把握と今後の教育学部における実習プログラムの在り方に関する資料としていきたい。

## 2. 実習の概要

### 1) 実習の目的:

①マリンプログラムの技能と理論を習得する、②野外活動のもつ教育的価値や生涯スポーツとしての価値を理解する、③自然への興味関心を高め、教育の場としての自然の知見を深める、④組織的な集団生活を通し豊かな人間関係、社会的態度の在り方について体験的に習得する

### 2) 実習担当教員: 植木・竹内・陳・曾根・金子・西 (教務補佐)

学生スタッフ: 健康福祉学部4回生 6名

### 3) 実習場所: 大阪府立青少年海洋センター 〒599-0301 大阪府泉南郡岬町淡輪 6190

### 4) 参加学生: 教育学部3回生36名 (小学校教育コース8名・保健体育教育

コース28名)

### 5) 日程: 平成29年4月21日 (金) - 4月23日 (日)

### 6) 実習内容: オリエンテーリング・イニシアティブゲーム・クラフト・カヌー体験 他

※表1 活動プログラム参照

## 3. 調査内容

### 1) 調査目的: それぞれのプログラムに対する満足度や活動を通しての気づき、感想から教育的効果を確認する。

### 2) 調査日時: 平成29年4月25日

### 3) 調査方法: 質問紙による調査: 5件法を用いた。5つの選択肢 (非常に満足・満足・どちらでもない・不満・非常に不満) から回答者に最も適切なものを選ん

表1. 活動プログラム

|        | 4月21日 (金)   | 4月22日 (土)                                       | 4月23日 (日)                            |
|--------|---|---|--------------------------------------|
| A<br>M |   | 朝食<br>体験プログラム④ (カヌー)<br>体験プログラム⑤ (イニシアティブゲーム)   | 朝食<br>体験プログラム⑨ (クラフト)                |
| P<br>M | 集合・入所式・オリエンテーション<br>体験プログラム① (オリエンテーリング)<br>体験プログラム② (ニュースポーツ)<br>体験プログラム③ (野外炊飯) | 昼食<br>体験プログラム⑥ (カッター)<br>体験プログラム⑦ (ビーチ活動)<br>夕食 | 昼食<br>体験プログラム⑩ (クラフト)<br>自由行動<br>解散式 |
| 夜      | レクチャー① (スタンツ課題説明) +<br>(グループミーティング)   | 体験プログラム⑧ (スタンツ発表会)<br>+ (フォトコンテスト発表会)           |                                      |

でもらい、その理由を自由記述で回答をお願いした。

- 4) 主な調査項目:①班別活動全般について  
②野外炊飯について③クラフト活動について④イニシアティブゲームについて⑤カヌー・カッターについて⑥スタンツについて⑦ビーチプログラムについて⑧フォトコンテストについて(撮影から発表まで)
- 4) 回収率:35部/36名(参加者) 97.2%

## 4. アンケート結果

### 4-1. 実習班の取り組みについて

実習を進めていくにあたり6つの班編成(各組約6名)を行い、実習期間中の活動はすべて班のメンバーで行動することとした。そのねらいとして、メンバー間のコミュニケーション・役割分担・協力することを学ぶ機会と班活動の意味を理解し、将来の現場で役立ててもらうことを目的としている。班の構成に関して、教員の方で普段関わりの少ないメンバーで構成するよう配慮した。その班活動に

表2. 参加学生の性別

|    | 度数 | %     |
|----|----|-------|
| 男性 | 27 | 77.1  |
| 女性 | 8  | 22.9  |
| 合計 | 35 | 100.0 |

表3. 参加学生の性別と所属コース

|    |    | 所属コース         |            | 合計           |
|----|----|---------------|------------|--------------|
|    |    | 保健体育教育コース     | 小学校教育コース   |              |
| 性別 | 男性 | 度数<br>23<br>% | 4<br>14.8% | 27<br>100.0% |
|    | 女性 | 5<br>62.5%    | 3<br>37.5% | 8<br>100.0%  |
| 合計 |    | 28<br>80.0%   | 7<br>20.0% | 35<br>100.0% |

表4. 性別と班活動のクロス表

|    |    | 班活動全般     |             |             | 合計           |
|----|----|-----------|-------------|-------------|--------------|
|    |    | どちらでもない   | 満足          | 非常に満足       |              |
| 性別 | 男性 | 1<br>3.7% | 9<br>33.3%  | 17<br>63.0% | 27<br>100.0% |
|    | 女性 | 0<br>0.0% | 1<br>12.5%  | 7<br>87.5%  | 8<br>100.0%  |
| 合計 |    | 1<br>2.9% | 10<br>28.6% | 24<br>68.6% | 35<br>100.0% |

表5. 実習班に関する自由回答（一部抜粋・内容が類似しているものは削除）

| no | 回答  |
|----|---|
| 1  | 今まで顔は知っていたけど、話したことはあまりなかったり関わる機会がない子とも班別活動を通して仲良くなれたりコミュニケーションが取れて良かったです。いろいろな学生の新しい一面を見ることができた。              |
| 2  | オリエンテーリングやバーベキュー、スタンプをみんなで楽しみながらできて楽しかった。   |
| 3  | 話したことのなかった人とも話すことができて、とても嬉しかった。   |
| 4  | 班の中だけでなく、班と班での交流でさらに、仲を深めることができて嬉しかった   |
| 5  | 先生が決めてくださったことにより、普段関わらない人たちと過ごすことができたので良かったです。  |
| 6  | 班が固定され3日間過ごすことで班内での仲の良さが増した。最後は全員がこの班で本当によかったと言いつけ結果になった。また活動によって他の班と共に活動することもあり、自分の班に縛られることなく非常に良かった。        |
| 7  | 学内ではあまり話したことない人も同じ班は不安でしたが、班活動を通して仲良くなれてとても良かった。  |
| 8  | 学校生活では関わりのない仲間とも交流することができ、人脈が広がりました。これからキャンプで仲良くなった人意外とも積極的にかわらうと思えました。                                       |
| 9  | 班で協力して行うプログラムがほとんどで面白かった。その分話し合う時間もしっかりとられて良かった。  |
| 10 | 役割分担をし、効率の良い行動ができました。   |
| 11 | 普段交流のなかった人とふれあえたから、楽しく活動できました。  |
| 12 | 最初はそんなに絡んだ経験があった訳でもなくうまくやっていたかわからないメンバーだったが実習を通じてどんどん仲が良くなるのを感じた。そうやって友好関係がどんどん広がっていく楽しさも実習の良いところであり、楽しみだと思う。 |
| 13 | 班で協力して取り組むことが多く、みんなで協力したり、勝負時には全力で、その結果スタンプで優勝出来たりしたことがすごく嬉しかったです。  |
| 14 | 班で協力して活動することができ、特にスタンプでは全員で話し合いアイデアを出し合ったりしてとてもいい機会であった。  |
| 15 | メンバーがいつも大学と一緒にいる人たちだったので新鮮味はなかったが、それでもその中で協力して楽しむことができた。  |
| 16 | いろいろな活動があり、満足したが自分たちの班は男子しかいなかったの少し残念だった。四回生が仕切ってくれたりしたおかげでとても円滑に活動を進められたと感じる。                                |
| 17 | 班と部屋割りが別々で集合などが少しだけやりづらかった。積極的に他の部屋を出入りするようしておけばよかった。   |
| 18 | 班で多くの時間を過ごすのでさらに仲良くなれたし、とても楽しかった。   |
| 19 | 楽しかったが、日によって班を変えてもよかったと思う。班での協力が大切だと感じた   |
| 20 | 班で活動することで、仲の良い友達だけでなく、関わったことのなかった人ともコミュニケーションをとって、その人を理解することで仲を深められた。   |
| 21 | 話したことないメンバーがいたけど仲良くなれて嬉しかった。実習を経てもっと色んな人と関わりをもっていきたいと思う。  |
| 22 | 話したことのない人と関わり、新たに友達ができたので班活動はよかったです。  |
| 23 | 全員話すことができたし、グループ内で仲良くできたから。   |
| 24 | 班の団結力はかなり深まったが、逆に班でのかわりが多い他のメンバーともっと活動ができればよかった。  |
| 25 | スタンプでは夜通し協力して案を出し合ったのがとても印象に残っています。   |
| 26 | 班の中だけでなく、班と班での交流でさらに、仲を深めることができて嬉しかった   |
| 27 | 野外炊飯や班で活動したものがすべてが楽しく、やりがいがあった。   |

関する満足度（表4）をみると、男性では「非常に満足」と「満足」を合わせると96.3%、女性では「非常に満足」と「満足」を合わせると100%であり、多くの学生が班活動に満足した結果であった。

その理由（表5）をみると、「学内で普段関わりのない人と交流機会があった。」「班が固定されていたことで仲を深めることができた。」「班で協力して活動ができた。」等、班活動を

通して仲間との交流機会や協力することの大切さを学んだことを良かったと多くの学生が回答している。

#### 4-2. 野外炊飯について

野外炊飯活動は、施設内にある野外炊飯場において実施した。この野外炊飯活動のねらいは、安全的・衛生的な仕方の指導、火の付け方・消し方及び危険性、刃物の扱い方や炊



写真1) 野外炊飯の準備①



写真2) 野外炊飯の準備②

表8. 性別と野外炊飯のクロス表

|    |    | 野外炊飯    |         |       |       | 合計     |        |
|----|----|---------|---------|-------|-------|--------|--------|
|    |    | 不満      | どちらでもない | 満足    | 非常に満足 |        |        |
| 性別 | 男性 | 人数<br>1 | 1       | 12    | 13    | 27     |        |
|    | %  | 3.7%    | 3.7%    | 44.4% | 48.1% | 100.0% |        |
|    | 女性 | 人数<br>0 | 1       | 5     | 2     | 8      |        |
|    | %  | 0.0%    | 12.5%   | 62.5% | 25.0% | 100.0% |        |
| 合計 |    | 人数<br>1 | 2       | 17    | 15    | 35     |        |
|    |    | %       | 2.9%    | 5.7%  | 48.6% | 42.9%  | 100.0% |

表9. 野外炊飯に関する自由回答（一部抜粋・内容が類似しているものは削除）

| no | 回答   |
|----|--|
| 1  | 食材を取りに行く人、道具を取りに行く人など役割が分担されていてわかりやすく指示もされていたので全体的にスムーズに行うことが出来たと思います。食べ物もおいしくとても満足でしたが、すこし食べる時間が短かったので最後は皆で焦って流し込むように食べなければいけないのが少し残念でした。 |
| 2  | いろんな具材があって、楽しめた。片付けもみんなで協力してできた。   |
| 3  | 協力しないと進まない企画であったためみんなで協力して進めることができた。   |
| 4  | 2班の合同で行ったので効率よく準備・片付けを行うことができた。だが逆に、人が多くて手が空くことがあったので、そういう時にどのような行動がとれるかが大切だと感じた。  |
| 5  | 班のメンバーで協力して活動していくのがとても良かった   |
| 6  | みんなで協力しなければいけない場面が多かったことでそれと団結したり、助け合えたのですごく良かったです。  |
| 7  | 準備は班内で役割を分担しスムーズに行えた。外での活動で野外炊飯は外せない活動であると思っている人が多くみんなが満足していると思う。片付けに関しても自主的に動く人が多く短い時間で終わらせることができたと思う。                                    |
| 8  | 協力しないと火が起こせない、食材切るだけでも協力しないと大変だったから協力することの素晴らしさ大切さを学んだ。  |
| 9  | 最初は火がなかなかつかなくて、苦労しましたが、班で協力して火をおこし、食事することで普段の食事では味わえない達成感も味わうことができました。   |
| 10 | 着火までに時間がかかってしまい班ごとにムラがあったがそれもそれで楽しかった。片付けがみんなで協力して速やかに終了できたのがよかった  |
| 11 | 試合のため準備にはあまり協力できなかったけど、みんなで薪を割って火をおこしたりして楽しかったです。肉もおいしく食べることができました。片づけではみんなやるべきことを率先して取り組み手際よく終われたと思う。                                     |
| 12 | 準備や片づけは、人任せにせず、全員が積極的に動いていたと思うし、BBQの火おこしなども協力できていたと思う。   |
| 13 | 準備から火おこし、片付けまですべてやることで成長しました。  |
| 14 | 班メンバーで協力しながら料理をしていくのは非常にいいと思う。しかし、時間が少なかった。作り終えた後の食べる時間が少なかったので少し残念だった。  |
| 15 | みんなで役割分担して、協力することで準備から片付けまでスムーズにでき楽しかったからです。   |
| 16 | 全体的にもっと手分けしてできればもっとよかったですと感じた。   |
| 17 | 準備から片付けまでスムーズにできたと思う。火をつけるのがすく上手くいったが、肝心の焼く頃には火が弱くなり上手く焼けなかった。だが、隣の班の火を使わせてもらい最終的には美味しく食べられたので満足。  |
| 18 | 自分たちでほとんど準備から片付けまですることでより美味しく感じられたし、充実感があってとても良い経験になったと感じる。普段の食のありがたみを感じられた。   |
| 19 | みんな積極的に活動に取り組んでいたし、役割分担もできていた。火おこしのレクチャーはあってもよかった。   |
| 20 | 班で役割分担をして協力でき、食べ物の量や配当されている時間も長かったため、楽しくおいしく食べることができた。   |
| 21 | 班のみんなが協力して準備から片付けまでできたためスムーズに終わり楽しかった。   |
| 22 | 非常に楽しめたのですが、時間が足りなく、もう少し時間があってもよいかと思いました。  |
| 23 | 皆で1つのことをやりとげることに価値を感じたから。  |
| 24 | うまく木を組んで火をつけることができたから。   |
| 26 | みんなで分担して準備、片付けをすることが出来た。   |
| 27 | 班のメンバーで協力して活動していくのがとても良かった。  |

事用具の正しい使用方法等、教育現場において児童・生徒に指導する際に必要な基本的技術を学ぶ機会として、さらに炊事を通して仲間意識、野外生活の楽しさ、共同生活の認識を深めることを目的とした。その野外炊飯に関する満足度(表8)をみると、男性では「非常に満足」と「満足」を合わせると92.5%、女性では「非常に満足」と「満足」を合わせると87.5%であり、多くの学生がその内容に満足している結果であった。

その理由(表9)をみると、グループ間で準備から片付け、役割分担し協力して行えたことに多くの学生が良い評価をしている。しかし準備から食事までの時間が足りないといった回答も多く、今後のプログラム作成においての改善点も明らかになった。

#### 4-3. クラフト活動について

クラフト活動は、好きな形の石を選び絵を描く「石ころアート」の作品づくりを実施した。実習全般に身体活動を伴う活動が多かったこともあり、実習最終日は小中学校の現場でも実践できるクラフト活動を取り入れた。手のひらサイズの平たい石ころに絵の具を使用して好きな絵を描くという内容で、初めは体を動かしたい学生にとっては不評でしたが、実際行ってみると皆集中して取り組み、どの学生もいい作品を完成させていた。そのクラフト活動に関する満足度(表10)をみると、男性では「非常に満足」と「満足」を合わせると73.7%、女性では「非常に満足」と「満足」を合わせると87.5%であった。



写真3) 石ころアート作成の様子



写真4) 石ころアート作成の様子

表10. 性別とクラフト活動のクロス表

|    |    | クラフト活動  |       |       | 合計     |
|----|----|---------|-------|-------|--------|
|    |    | どちらでもない | 満足    | 非常に満足 |        |
| 性別 | 男性 | 度数<br>7 | 9     | 11    | 27     |
|    | %  | 25.9%   | 33.3% | 40.7% | 100.0% |
|    | 女性 | 度数<br>1 | 6     | 1     | 8      |
|    | %  | 12.5%   | 75.0% | 12.5% | 100.0% |
| 合計 | 度数 | 8       | 15    | 12    | 35     |
|    | %  | 22.9%   | 42.9% | 34.3% | 100.0% |

表11. クラフト活動に関する自由回答について(一部抜粋・内容が類似しているものは削除)

| no | 回 答   |
|----|---|
| 1  | ずっと体を動かしていたので石ころアートのように落ちて活動する時間があって良かったです。皆の作品をみて、同じ石ころなのにそれぞれ工夫やアイデアがあり感動しました。  |
| 2  | とても楽しかった。でも石がほとんど丸かったため個性を出しづらかった。自分でいろんな形の石を選べると尚良かった。   |
| 3  | 小学生などには自由ということが逆に難しいと思うので、テーマや見本を準備することが大切だと感じた。短い時間で、一つの作品を完成まで持っていけるのですごくよかったです。それぞれの個性を見ることができた。                                 |
| 4  | みんなが落ち着いた作業にも黙って真剣に取り組む姿を見ると自分も負けられないし、良いものを作ろうと気合が入った。本当にいい仲間だと思った。  |
| 5  | 駅だったのでみんな眠そうでした。最終日だったので早朝から散歩や軽いレクリエーションがあつたらもっとみんなが元気に楽しめたと思います！  |
| 6  | 何を描くか考える時間が短かったかなと思った。いいアイデアが出てこないとした時間だけが過ぎていった。他の人の作品を見ることで石ころということをうまく使って他にはない表現をしているものもあり、こういった表現の仕方もあるということをおぼえられ、非常に良い刺激を受けた。 |
| 7  | 三日目で体力的にきつい時に穏やかな活動で良かったし、石に絵を描くことも楽しかったです。   |
| 8  | 石に絵を描く、という字面だけでは地味に感じるものではあったが、実際に行うと石の形から他の物を連想したり、石の形を生かしたデザインにしたりととても面白かった。  |
| 9  | 部員で行くことよりも、野外でのスケッチなどのほうが良いのでは感じたため。  |
| 10 | 大学生になってこの活動のようなことを初めてしたので、とても懐かしい気分になった。こういった活動は意外と集中力や忍耐力を使うので良いと感じた。そして出来上がった後の達成感で、やってよかったと感じた。                                  |
| 11 | 美術が苦手な私にはまずまずの出来の作品が作れたのは良かった。  |
| 12 | 初めて体験をしたが、石の形や大きさによって何を描くかわかってくるし、みんなの創造力や発想力がみれて良かった。  |
| 13 | 一人ひとりの個性が出ていて良かった。また、普段することがないような活動だったのでいいと思う。  |
| 14 | 最終日にこのプログラムを持ってきたのは正解。また、初めての経験であり自分が考えていたより面白かった。  |
| 15 | 最終日は疲れていて落ち着いた活動も良かったけど、せつかならみんなアクティブな活動をして良かった。  |
| 16 | 活動前はみんなあまり関心を持っていなかったのだが、いざ筆を執ってみてイメージを膨らませたり、完成品を並べてみると各自の創意工夫を見ることができて非常に趣き深い活動になった。  |
| 17 | 考える楽しさがあったし久しぶりに絵を描いて色を塗るのもとても楽しく感じた。   |
| 18 | すべてグループ活動の中、個人で行うのも楽しかった。   |
| 19 | 個性がしっかり出ていて、とてもよい経験になったと思う。   |
| 20 | 自分が思った通りに絵の具で塗れて楽しかった。  |
| 21 | 普段体を動かすことを主に行っている中で、とても新鮮味のある体験内容でした。   |
| 22 | 完全に自分の世界にはいつまでも交流できなかった。  |
| 23 | 小学校ぶりぐらいにこういう体験をして楽しかった。表現活動について学べた。  |
| 24 | できれば石を拾うところからやりたかった。  |

その理由(表10)をみると、学生個々の作品をみることで、それぞれのアイデアや工夫に刺激を受けることができ、また一生懸命取り組んだことで作成する楽しさや達成感を味わえた等の回答が多くみられた。

#### 4-4. イニシアティブゲームについて

イニシアティブゲームとは、示された課題をグループで相談し解決する中で、コミュニケーションを深め、人間関係を築くことができるレクリエーション活動であり、教員を



写真5) イニシアティブゲームの様子



写真6) イニシアティブゲームの様子

表12. 性別とイニシアティブゲームのクロス表

|    |    | イニシアティブゲーム |       |       | 合計    |
|----|----|------------|-------|-------|-------|
|    |    | 不満         | 満足    | 非常に満足 |       |
| 性別 | 男性 | 度数         | 1     | 7     | 19    |
|    |    | %          | 3.7%  | 25.9% | 70.4% |
|    | 女性 | 度数         | 0     | 3     | 5     |
|    |    | %          | 0.0%  | 37.5% | 62.5% |
| 合計 | 度数 | 1          | 10    | 24    |       |
|    | %  | 2.9%       | 28.6% | 68.6% |       |

表13. イニシアティブゲームに関する自由回答(一部抜粋・内容が類似しているものは削除)

| no | 回答  |
|----|---|
| 1  | みんなで協力して楽しめたなあと感じた。また、簡単に皆参加できるので教育実習でも使いたいと思う遊びがたくさんあったのでよく調べていい時間でした。   |
| 2  | 教師になった時に子どもたちと遊べるゲームを知ることができたからとてもよかった。   |
| 3  | 男女関係なく全員で楽しむことができた。友達との共通点を自然と見つけることができたので、よりコミュニケーションをとることができた。教員になった時、是非使ってみようというゲームばかりであった。                    |
| 4  | 学校現場で使えるようなものが多く、幼体等でも易しくして取り入れて見たいと思った。  |
| 5  | 教師になった後使いたいと思うようなゲームが含まれており、私達も純粋に楽しめる内容でよかった。  |
| 6  | いつでもどこでもできるようなことでとても楽しめた。工夫次第で普段は何にも活用できないようなものが楽しめる材料となっていた。みんなが知らずのうちに必死になって取り組んでいたことが非常に良かった。私も機会があれば活用しようと思う。 |
| 7  | 様々なレクリエーションを知る良い機会になり純粋に楽しかった。特に、全員で円になってフープを早く一周させるゲームがとても楽しかった。   |
| 8  | 将来現場で使えるようなプログラムが多く大変興味深かったが、もう少し説明・解説の時間を短くしてほしい。  |
| 9  | レクの引き出しが増えた。楽しかった。教育実習に生かそうと思う。   |
| 10 | 今までかわりなかった子どもたちとともに協力して行うことで仲良くなることができたから。  |
| 11 | 今まで体験したことのない楽しいゲームだった。多分このゲームは教員になった時にも使えるだろうし、その他の仕事に就いたとしても子どもと関わる時などにうまく使えると思うので、大変勉強になった。                     |
| 12 | グループ分けのゲームとかは、皆のやる気がない絶対楽しくならないと思ったけど、皆楽しそうで自分も楽しくなって教育学部のいいところだなと思った。これからもそういう部分を持ち続けたい。                         |
| 13 | 活動量が意外と多くとても楽しかった。協力しながらするところや仲良くなるきっかけになる内容だったのよかった。   |
| 14 | 非常に楽しめた。イニシアティブゲームを班で発表し、活動するのの一つの方法として良いのではないと思う。  |
| 15 | 最初はあまり乗り気ではなかったが、いざやってみるとよく考えられていて、競争形式のミニゲームなどを取り入れることで真剣に取り組むことができたし、自分の遊びのバリエーションも増え、良かったと感じる。                 |
| 16 | 大人気のコミュニケーションが難しい、大切なことに気づかされた。思ったアイデアはハッキリ伝えたほうが良いと思った。  |
| 17 | 簡単な動作が多かったがそれをみんなでやるのは難しかったし、時間を縮めるのも難しかったけれど、その分コミュニケーションをたくさんとれたし、なにより達成感を味わうことができた。                            |
| 18 | イニシアティブゲームは初めてとてもおもしろい。なおかついろんな人と交流を深めることができたので良かった。  |
| 19 | 多くの人と話すことができたし、フープを全員でくぐって時間を測るやつは、みんなでタイムを短くするために協力して盛り上がりたし、達成感なども味わえた。   |
| 20 | 男女関係なくみんなで楽しめて仲が深まってよかったと思う。  |
| 21 | 全てのゲームが楽しく、教育実習の時にも、児童と一緒にできると思った。  |
| 22 | 自分はあまり面白いと感じなかったが、作り終えたときの達成感はあったから。  |
| 23 | みんなで協力することで達成感を味わえた。  |
| 24 | カヌーで疲労が蓄積していたが、体を休ませながら楽しく活動することができた。   |
| 25 | 将来教師になった際としても役立つことを学べた。   |
| 26 | 正直そんなに面白い内容とは思いませんでしたが、楽しめました。  |
| 27 | 全体で盛り上がることもでき教職を目指すものにとって教材としてつかえるものも学べた。   |

指す学生たちに、現場で活かせるレクリエーションの材料提供やその指導法を学ぶ機会として組み入れたプログラムである。そのイニシアティブゲームに関する満足度(表12)を見ると、男性では「非常に満足」と「満足」を合わせると96.3%、女性では「非常に満足」と「満足」を合わせると97.1%であり、多く

の学生がその活動に満足している結果であった。その理由(表13)を見ると、多くの学生が将来学校現場で使える内容だったことに満足した回答であり、次いで「みんなで協力する達成感を味わうことができた。」「みんなで楽しむことができた。」等、内容そのものを楽しめたといった回答が多かった。





写真7) カヌー体験



写真8) カッター体験

表 14. 性別とカヌーのクロス表

|    |    |    | カヌー     |       |       | 合計     |
|----|----|----|---------|-------|-------|--------|
|    |    |    | どちらでもない | 満足    | 非常に満足 |        |
| 性別 | 男性 | 度数 | 2       | 5     | 20    | 27     |
|    |    | %  | 7.4%    | 18.5% | 74.1% | 100.0% |
|    | 女性 | 度数 | 0       | 2     | 6     | 8      |
|    |    | %  | 0.0%    | 25.0% | 75.0% | 100.0% |
| 合計 |    | 度数 | 2       | 7     | 26    | 35     |
|    |    | %  | 5.7%    | 20.0% | 74.3% | 100.0% |

表 15. カヌーに関する自由回答（一部抜粋・内容が類似しているものは削除）

| no | 回 答  |
|----|--|
| 1  | 学生のボランティアの方がわかりやすく説明してくださったり、今までカヌーは修学旅行で体験したことはありませんでしたが先生や補助員の人が必ず一緒に乗っていたので、自分達だけで乗って漕いで進んでいくのが楽しかったです。思ったより速くにも行けて、自分達だけでここまでこれたんだという充実感もありました。                      |
| 2  | 部活で同じような道具を使うので操作に困らないし、海で漕ぐ感覚もつかめているのでやりやすかったし、友達とやることでとても楽しく行うことができた。  |
| 3  | 呼吸を合わせることの大切さを学んだ。21日に両方は癒れるしカッターの途中でみんなだからけたと思うから。  |
| 4  | カヌーで海に出るのは初めてだった。波があったのですごく迫力があり、よい経験になった。   |
| 5  | 比較的自由にやれたのが良かった。だが、常に危険と隣り合わせなので細心の注意を払わなければならない。  |
| 6  | 船酔いに苦しめられたが普段簡単にできる体験ではないので貴重でした。1番楽しみにしていたのでできて良かったです！  |
| 7  | カヌーはただがむしやらに漕いでいけばいいということではないということを実感した。2人が息を合わせることが非常に重要だった。思っていたところよりも奥まで進むことで、波が強くなったり、ここで転倒したらどうしようという不安だったりなど、様々な状況の中で行えたことも良かった。行きよりも帰りが上達していて短時間で進歩を実感できたことも良かった。 |
| 8  | 普段できない体験であり、自然に触れあえる体験だったのでとても良かった。思っていたよりも力がいり、二人でしっかりと力を合わせないと前に進まず、なかなか難しかった。   |
| 9  | 小学校時、カヌー経験はあったが、その時は川だったので波のある海でカヌーをするのは怖かったですが楽しかったです。  |
| 10 | 初めてですべてが興味深く安全面も考慮されていて心強かった。波が高い時間帯で少し酔ったがそれも面白かった  |
| 11 | ボランティアの学生の方々の漕ぎ方などのレクチャーはわかりやすく、初乗りなのに随分沖の方にまで漕いで行けた自分やみんなに感動した。フェリーに乗ったときに味わう「波の揺れ」とは次分違ったため、その点は予め知っておきたかった。   |
| 12 | 楽しかった。けど女子だけのボートはなかなか進まず男女ペアのほうがもう少し沖まで行けたのかなと思います。  |
| 13 | 冒険をしたような気分だった。普段あんなに沖の方まで行くことがない。なので非常に楽しい経験をする事ができた。カヌーについては何も思うことはない。インストラクターの転覆には驚いた。   |
| 14 | 初めて体験出来たことが嬉しかったからです。2人で協力して取り組みました。   |
| 15 | 両方楽しく活動できたが、どちらかでもよかったかもと感じたため。  |
| 16 | 最後らへんはすごくしんどかったけど、新鮮な体験でよかった！ 長い距離を漕いだのでちょっと酔った。   |
| 17 | やりがいのあるメニューだった。海の心地よさを感じることができたから。   |
| 20 | 2人乗りで小さいので、より自然を感じる事ができた。  |
| 21 | 2人組で意気投合して漕ぐことができて楽しかった。   |
| 22 | 2人で協力しないとうまく進まないで友情も深まった。  |
| 23 | 2人組で行うとのことで、楽しみながらできたと思います。2人で漕いで、一番速くまで漕げたことは嬉しかった。   |
| 24 | 息が合うと想像以上のスピードが出る。   |
| 25 | 1日に両方やるのと疲れがたまり、意欲がそがれたと感じた。   |
| 26 | 呼吸を合わせることの大切さを学んだ。思っていたより体力がいると思った。  |

#### 4-5. 海洋プログラムについて

カヌー体験については、本実習のねらいにもあった、マリンプログラムの技能と理論を習得であり、基本的なパドリングの方法を学び、カヌーを通した自然体験を目的としている。また、カヌー体験を楽しむとともに、水辺での事故を防止するための安全学習など、事故にあった時の対処法も学ぶ機会として行った。そのカヌー体験に関する満足度(表14)をみると、男性では「非常に満足」と「満足」

を合わせると92.6%、女性では「非常に満足」と「満足」を合わせると100%であり、多くの学生がその活動に満足している結果であった。その理由(表15)をみると、初めて体験したという者が多く、カヌー体験を通して「自然に触れる機会になった。」「技術の習得が来た(2人の呼吸を合わせることが大切など。)」等、充実した内容を示す回答が多かった。

カッター体験についても、カヌー体験同様、本実習のねらいにもあったようにマリンプログラムの技能と理論を習得であり、みんなで

表16. 性別とカッターのクロス表

|    |    |       | カッター    |       |        | 合計     |
|----|----|-------|---------|-------|--------|--------|
|    |    |       | どちらでもない | 満足    | 非常に満足  |        |
| 性別 | 男性 | 度数    | 2       | 10    | 15     | 27     |
|    |    | %     | 7.4%    | 37.0% | 55.6%  | 100.0% |
| 女性 | 度数 | 1     | 2       | 5     | 8      |        |
|    | %  | 12.5% | 25.0%   | 62.5% | 100.0% |        |
| 合計 | 度数 | 3     | 12      | 20    | 35     |        |
|    | %  | 8.6%  | 34.3%   | 57.1% | 100.0% |        |

表17. カッターに関する自由回答(一部抜粋・内容が類似しているものは削除)

| no | 回答  |
|----|---|
| 1  | カッターは初めて乗ったのですが皆で声を掛け合って協力しないと進むのが難しく大変でしたが楽しかったです。   |
| 2  | カヌーとは違い、操作は非常に簡単でみんなでタイミングを合わせて行うのでとても楽しかった。  |
| 3  | カヌーとイニシアティブゲームの疲れが少しでしてしまいましたが、みんなで声を出して楽しむことができた。  |
| 4  | グループでかけ声やスピード、雰囲気は異なり、グループごとの色が出ていたことが良かった。カッターはグループ全体で漕いでいるという感覚が強く、一体感が出た。終わった後にはみんながたくさん汗をかいており、夢中になって楽しんでいた証だなど思っていた。 |
| 5  | 全員で呼吸を合わせないとなかなか進まないのでも難しかったです。でも掛け声をあわせていくうちに後半はいい感じのスピードでかえってこれたのでよかったとおもいます。   |
| 6  | 最後のほうは体力勝負できつかったけれど、自分たちの力でカッターを進めるのはやりがいがありました。  |
| 7  | 初めて乗ったので楽しかったが、前のカヌーとイニシアティブゲームを楽しみすぎて少し疲れた。体力の配分を間違えた。   |
| 8  | みんなで力を合わせて漕ぐことで速さも出るし楽しかったが、もう少し速くに行きたかった。ひたすら漕いでいたので味気なさもあった。競争などがあっても良かったかもしれない。  |
| 9  | 初めて経験出来たことが嬉しかったからです。みんなで掛け声を合わせて、こくことが出来ました。   |
| 10 | 掛け声をしない人がでてきたり、漕がない人がちらほらいた。そこ以外はとても良かった。   |
| 11 | テレビなどで拝見しててずっとやってみたかったので嬉しかった。だが、中々上手くいかず、自分が思っていたより難しく体力を使うものだと分かった。   |
| 12 | 皆で力を合わせて漕ぐので難しく、そこがまた達成感もあり良い経験となった。結構速いところまで行ったので体力的にも結構疲れたが、楽しかった。  |
| 13 | カヌーとは打って変わってすごく安定した乗り物になる代わりに漕ぎ方は難しい。個人的にはカヌーより先に体験した方が海に慣れやすいかと思った。  |
| 14 | 掛け声を言うことで一体感が生まれとても良かった。みんなで掛け声を考えて行うことでより楽しめることがわかった。  |
| 15 | 掛け声をかけて皆で漕いで漕ぐことに達成感を味わえたり、一体感を味わえて嬉しかった。   |
| 16 | かなりハードではありましたが、楽しめたので良かったです。  |
| 17 | 距離は長かったのですが、達成感が大きかった。  |
| 18 | 漕ぐ距離が長すぎるとだれてしまうと感じたから。   |
| 19 | 皆で声を出して活動するなど、統一感を出せたから。  |

協力して櫂（オール）を漕ぎカッターの操船体験を学び、協調性や集中力を養うことを目的としている。そのカッター体験に関する満足度（表16）をみると、男性では「非常に満足」と「満足」を合わせると92.6%、女性では「非常に満足」と「満足」を合わせると100%であり、多くの学生がその活動に満足している結果であった。その理由（表17）をみると、多くの学生が実施時の掛け声をかけてみんなで揃えて櫂をこぐことで達成感と一体感を味わえたに満足した回答であった。

#### 4-6. スタンツについて

スタンツ活動について、実施前日の夜プログラムの時間において、明日発表してもらう

課題について説明し、班メンバー間で話し合いの時間を持たせた。スタンツを実施するねらいは、グループ間で話し合いを行う過程において創造の楽しさがあり、仲間との協力やチームワークの喜びが得られる、自分や仲間の隠された持ち味を発見できる、表現能力が高まり、積極性が身につくといった効用が期待できることである。そのスタンツ活動に関する満足度（表18）をみると、男性では「非常に満足」と「満足」を合わせると100%、女性では「非常に満足」と「満足」を合わせると100%であり、すべての学生がその活動に満足している結果であった。その理由（表19）をみると、多くの学生が、メンバー全員で、意見を出し合い協力して作品を作り上げ



写真9) スタンツの様子①



写真10) スタンツの様子②

表18. 性別とスタンツのクロス表

|    |    | スタンツ |       | 合計    |        |
|----|----|------|-------|-------|--------|
|    |    | 満足   | 非常に満足 |       |        |
| 性別 | 男性 | 度数   | 7     | 20    | 27     |
|    |    | %    | 25.9% | 74.1% | 100.0% |
|    | 女性 | 度数   | 2     | 6     | 8      |
|    |    | %    | 25.0% | 75.0% | 100.0% |
| 合計 |    | 度数   | 9     | 26    | 35     |
|    |    | %    | 25.7% | 74.3% | 100.0% |

表19. スタンツに関する自由回答（一部抜粋・内容が類似しているものは削除）

| no | 回 答   |
|----|---|
| 1  | 前日に言われて、全然内容が決まらずごく悩んで苦労した。本番はこの班も本当に工夫されていたり個性が出ていて面白かったのですがこの班も完成して良かったなあと思いました。前日では少し時間が無さすぎるので前もって知らせて欲しかった。  |
| 2  | 班のみんなと練習して、いいものを作り上げることはできたが、練習時間がもう少し欲しかった。急に言われてなかなか決めることや練習することができなかったのも少し余裕が欲しかった。  |
| 3  | 最初先生に言われたときは正直やりたくなかった。しかし、みんなで意見を出し合って何をするか、内容はどうするかなど考えているうちにとても楽しくなって、早くやりたくなった。実際に本番を迎えて大成功したからとても嬉しかったし、スタンツがよかったなと思った。  |
| 4  | 短い時間でいかに完成形に持っていけるのか、あれは違うこれがいいと、みんなで話し合い相談する時間がとても楽しかった。前もって課題が出されるのではなく、その場で課題を与えられこれに興味を感じた。   |
| 5  | 内容を決めることでとても濃い時間を過ごせし手を抜かずに全力で取り組めた。やりきった後の満足感はたまらなかった。   |
| 6  | 始めは苦しみられましたが終わってみると一番印象的です。でも、どうせなら完璧なネタにしたかったので事前に知っていたら道具などのクオリティもあったと思う。スタンツでどのチームもその班の色が出ていたと思います！  |
| 7  | 最初は突然スタンツをするということを告げられ、何をすればいいのかと全く意見が出てこなかった。する意味があるのかなとも思っていた。しかし、考えていくうちにのめり込んでいる自分たちの班がそこにはあり、もっとこうした方がいいのではないかと細かい部分までこだわるようになっていた。他の班の演技を見てすべての班が班のメンバーの特徴を生かした作品となっていた。終わった後も互いにいい評価をしあっている様子が印象的で互いの作品をたたくえ合っていた。 |
| 8  | 少し恥ずかしいという気持ちもあったが、会場の空気がとてもよかったので楽しくできた。班のみんなで意見を出し合い、どういった発表をするかを考えることはとても楽しかったが難しかった。  |
| 9  | 班で話し合い、出し物を決めるとき、なかなか意見がまとまらず大変だったが、本番に合わせて協力して完成させることができ、達成感を味わうことができたし、他の班の発表を見るのも楽しかったです。  |
| 10 | 限られた時間で1から話し合い考えるのは大変で複雑だが面白かった。他の班も一生懸命考えたものを見せられてもえたのは楽しかったし、自分たちも無事発表できてよかった。  |
| 11 | 全然どんなことするかが決まらなくて大変だったけど、皆でネタを出し合って本番も納得いくものができて緊張してかみかきかけと嬉しかったし楽しかった。   |
| 12 | 前日の晩に急に説明されて焦ったけど、時間の限られた中でのいろんな案を出し合い消灯された館内で夜遅くまで練習したのはとても良い思い出になっています。発表ではどの班もかなり完成度が高くとてもおもしろかったです。   |
| 13 | 最初スタンツを1日で考えるのは無理だと思っていたけど、班のメンバーで意見をだしあい、一人ひとりの個性をうまく活用できるように考えたり、想像以上に楽しかった。ほかの班の発表もとてもおもしろく、みんなの個性が出てよかったと思う。  |
| 14 | 短時間で話し合いから決めるのは難しかったのですが、みんなのあいている時間に集まって練習したり考えたりすることが楽しかったです。するからには、頑張って賞がほしかったので、協力した結果、優勝出来ました。   |
| 15 | 初めは驚いたけど、あらかじめ準備をせずにやるのもいいと思った。消灯の時間が決まっていれば、できないことだとも思った。学生の業があってもいいと思った。  |
| 16 | 話し合い時点では様々な案が出てはいたが、中々決まらず苦戦。やっていく中である程度の形になり何とか本番に間に合った。しかし、2回しか通しておらず、始め方と終わり方も決まっていないうような状態ですごく不安ではあったが、結果的に成功して特別賞まで頂けたので満足している。  |
| 17 | 急であたふたしたところもあったが、短時間だからこそ集中して取り組み、楽しかった。  |
| 18 | 急に考えなければならなかったのが難しかったし、なかなか決まらなかったしこれでもいいのか不安もあったけれど、やってみればとても楽しかったし、他の班の発表もどれもすばらしくて一番楽しめたプログラムだと感じた。  |
| 19 | 話し合いから発表まですべてが楽しかった。いきなりの課題で焦りましたが、班で協力し、いい発表ができました。  |
| 20 | スタンツの内容を決めることでとても濃い時間を過ごせし手を抜かずに全力で取り組めた。それもあって、やりきった後の満足感はたまらなかった。   |
| 21 | メンバー全員で、意見を出し合い、協力して取り組めたから。班の仲がさらに深まり、発表はどの班の面白かった。  |
| 22 | 一晩で出来るか心配だったが、どの班もすごいものを作っていた。  |
| 23 | 考えるのが疲れたが、協力して良いものを作れたから。また、他の発表を見て面白く感じたから。  |
| 24 | 企画や準備時間は非常によかったが、メンバーは班と別にすることでまた新しく交流を深められるのではないかと感じた。   |
| 25 | 最初は嫌だったけど、やってみたら案外楽しかった。発表を見てさすが大学生だなと思いました。  |
| 26 | 各班ごとに違った表現をしていて、表現の仕方について学ぶことができた。  |
| 27 | 教員は人前に入る職業で、みんながそれを経験できたから。   |
| 28 | みんなのスタンツがハイレベルでとても楽しめた！   |

ることで、グループ間の仲が深まったことや、発表までこぎつけた達成感等、課題達成に向けて充実した時間を過ごせたことに満足した回答内容であった。

#### 4-7. ビーチプログラムについて

このプログラムは、当初予定していたプログラムを変更して、学生の自主プログラムとして実習施設近くにあるビーチにおいて活動

を行った。学生たちは、ビーチバレーボール、ビーチサッカー、ビーチフラッグ等、学生たちそれぞれが考えた活動を実施した。そのビーチ活動に関する満足度（表20）をみると、男性では「非常に満足」と「満足」を合わせると92.6%、女性では「非常に満足」と「満足」を合わせると100%であり、多くの学生がその活動に満足している結果であった。その理由（表21）をみると、「自由時間を設けるこ



写真11) ビーチバレー



写真12) ビーチフラッグ

表20. 性別とビーチプログラムのクロス表

|    |    |      | ビーチプログラム |         |       |        | 合計     |
|----|----|------|----------|---------|-------|--------|--------|
|    |    |      | 不満       | どちらでもない | 満足    | 非常に満足  |        |
| 性別 | 男性 | 度数   | 1        | 1       | 11    | 14     | 27     |
|    |    | %    | 3.7%     | 3.7%    | 40.7% | 51.9%  | 100.0% |
|    | 女性 | 度数   | 0        | 0       | 3     | 5      | 8      |
|    |    | %    | 0.0%     | 0.0%    | 37.5% | 62.5%  | 100.0% |
| 合計 | 度数 | 1    | 1        | 14      | 19    | 35     |        |
|    | %  | 2.9% | 2.9%     | 40.0%   | 54.3% | 100.0% |        |

表21. ビーチプログラムに関する自由回答(一部抜粋・内容が類似しているものは削除)

| no | 回答   |
|----|--|
| 1  | 全員が参加でき、チームも仲良くなれるのですごく楽しかったです。また、女子でビーチフラッグをしたのがとてもたのしくて思い出に残りました。皆で体を動かすのは本当に楽しかったです。  |
| 2  | ビーチバレーは部活でもやるので慣れているので動きやすかったし、いろいろな人と対戦したり、いろいろな人とチームを組んでやれたのでとても楽しかったです。   |
| 3  | 自分自身ビーチバレーボールは初めての経験であり、すごく盛り上がり楽しかったです。是非またやりたい   |
| 4  | スポーツが大好きな体大生。スポーツが最大のコミュニケーションツールであるということを変更して感じることができた。   |
| 5  | 自分たちで次は何しようか考えて時間いっぱい体を動かすことができた   |
| 6  | 大人気で海に行くことはあまりなかったのでビーチバレーもみんなできて良かったです！女子で開催したビーチフラッグでの優勝は最高の思い出です！   |
| 7  | ビーチで行うバレーは一味違って新感覚でとても盛り上がっていた。チームスポーツということでも互いに助け合っていたし、喜ぶところはみんなで喜んでいたりしてよかった。その後の自由時間も体大生ということもあって思いっきり体を動かして、共に楽しめる仲間がいることは幸せだと改めて感じた。 |
| 8  | 自分たちで次は何しようか考えて時間いっぱい体を動かすことができた。たくさん体を動かして楽しかった。  |
| 9  | ビーチバレーをしたり、海に入ったり一足先に夏を感じることができ、とても楽しかったです。少し無茶もしてしまいましたが、良い思い出です。   |
| 10 | お昼過ぎで少し日差しが強くなったがそれほど苦ではなかった。ビーチバレーボールだけでなくビーチフラッグが始まったり海に入ってみたり程よく良い感じがとてもよかった  |
| 11 | とても楽しかった。やはり三日間動かないのは少し不安だったので、体を動かす時間がありとてもよかったです。  |
| 12 | 普段ビーチでスポーツをすることがないため、新鮮でよかったから。  |
| 13 | 競技自体は楽しかったが、みんな疲れ切っていてグダリ感が出てしまっていた。もう少し早い段階で行うのも良いかもしれない。大会形式にするなどただやるだけではなく、面白いポイントを作るのが良いかもしれない。  |
| 14 | 個人的に球技は得意だし、ビーチバレーなどは楽しかったが、苦手な人にとっては面白くなったのかもかもしれないので、なにか体験プログラムを入れてもよかったのではないと思う。  |
| 15 | 足場が砂だとあんまりにも動きづらいとは思わなかった。   |
| 16 | 自由時間を設けることで各々でも楽しむことができたため。  |
| 17 | 全体でするプログラムがあればもっと良かった。   |
| 18 | バレーボール以外のスポーツを皆でできたらよかった。  |
| 19 | ビーチだったのでおもいきり飛び込んだり出来たからよかった。自由時間が長く、思い切り動くことができました。   |
| 20 | ビーチバレーは順位をつけたりしたかった。そのあとの自由時間は楽しめた。  |
| 21 | 助け合い、声を出し合い、楽しみながら勝敗を競うことができたから。   |
| 22 | 天気がよくビーチで運動をするのはとても気持ち良かった。  |
| 23 | 海に飛び込む人達もいてみんなの笑顔が素敵でした。   |
| 24 | 自由時間が多くあって、笑顔が絶えなかった。  |

とで各々でも楽しむことができた。」または、「自分たちで次は何をしようか考えて時間いっぱい体を動かすことができた。」等、自主的に様々な活動に取り組めたことに満足した回答が多かった。

#### 4-8. フォトコンテストについて

実習スタート時のオリエンテーションにおいて、各班にカメラを配布し実習終盤にフォトコンテスト（発表会）を実施することを告げた。学生達に、実習期間中の班活動の様々ないい場면을撮影するよう指示し、その中で一番気に入った写真をグループ間で選出しタイトルをつけて発表する機会を設けた。そのフォトコンテストに関する満足度（表21）をみると、男性では「非常に満足」と「満足」を合わせると92.6%、女性では「非常に満足」

と「満足」を合わせると100%であり、多くの学生がその活動に満足している結果であった。その理由（表22）をみると、「写真を撮ることによって自然と笑顔のなる場面がたくさんあった。」「実習を通して目標があるのは良かった。」「良い写真を撮るために考えたりすることが楽しかった。」「思い出として残るのでよい。」「みんないい写真を撮ろうと競い楽しんでいた。」等、フォトコンテスト（発表会）を通して実習期間中の思い出を振り返るいい機会になにもなり、良かったといった回答が多くあった。

#### 5. まとめ

教育学部として初めての野外活動実習で不安もありましたが、担当教員や学生スタッフ



写真13) 撮影の様子①



写真14) 撮影の様子②

表22. 性別とフォトコンテストのクロス表

|    |    |    | フォトコンテスト |       |       | 合計     |
|----|----|----|----------|-------|-------|--------|
|    |    |    | どちらでもない  | 満足    | 非常に満足 |        |
| 性別 | 男性 | 度数 | 2        | 10    | 15    | 27     |
|    |    | %  | 7.4%     | 37.0% | 55.6% | 100.0% |
|    | 女性 | 度数 | 0        | 3     | 5     | 8      |
|    |    | %  | 0.0%     | 37.5% | 62.5% | 100.0% |
| 合計 |    | 度数 | 2        | 13    | 20    | 35     |
|    |    | %  | 5.7%     | 37.1% | 57.1% | 100.0% |

表23. フォトコンテストに関する自由回答(一部抜粋・内容が類似しているものは削除)

| no | 回 答   |
|----|---|
| 1  | 写真を1枚選んで提出するまでの時間がもうちょっとほしかった。みんなで集まって決める時間がほしかった。しかし、班に1台カメラを持たせてもらえてすごくよかった。しかも高いカメラだったため、良い写真も撮れて、大学生がやりたいたことを先生方はわかっているなと思った。               |
| 2  | 写真を撮ること自然と笑顔になる場面がたくさんあった。笑顔になると自然となにもかもが楽しく感じられる。  |
| 3  | 実習を通しての目標があると、それを意識しながら行動できると思うのでとてもよいと思った。   |
| 4  | 班に1台あったからこそ細かい素敵な表情やアングルの写真が撮れたんだと思う。フォトコンテストもすごく良かった。  |
| 5  | 各班に一つずつカメラがあり、費沢だと思ったし、様々な目線で活動を感じることができ、良かったです。  |
| 6  | カメラを貸して下さったり、みんな積極的に写真を撮っていたし楽しかったから。   |
| 7  | 大学生は、写真を撮ることを趣味にしている人が多いため、非常にレベルが高いものだったから。  |
| 8  | 各々が自身の表現の工夫を工夫して撮影していた。各グループ良い写真が撮れていた。   |
| 9  | 普段カメラを使うことがあまりないので、みんなの写真を撮ったり、良い写真を撮るために考えたりすることが楽しく、良いものがあると喜びあつたりしました。特定のカメラが好きな普段から使っている人がカメラを撮っている班が多かったので、みんなで良い写真を撮るとも良かったりするのかなとも思いました。 |
| 10 | 面白い写真があつてとてもよかった。また、写真として保存できるのでいいと思った。   |
| 11 | 沢山の中から最終的に選べるようにとにかくたくさん撮ることを意識し、メンバーで話し合いの末選んだものがすごく好評であつてくれたので良かった。ただ、他の班もすごく良い写真が撮れており、クオリティ高く驚いた。   |
| 12 | 思い出として残るので良い。カヌーやバーベキューは仲間との交流も深めることができとても満足だった。  |
| 13 | どの写真も予想以上の出来栄で甲乙付け難かった。班でのコミュニケーションという活動にも繋がっているのだから、票の投票数は班で一つより1人1人からのほうがより精密に採点できて楽しかったかも。   |
| 14 | 自分はまったく写真は撮っていなかったけど、班の写真を撮るときにいい写真ばかりだと感じたり、他の班の写真もすばらしい写真はばかりだと感じた。   |
| 15 | コンテストがあつた為、どの班も様々な写真を撮っていていい思い出ができたと思う。これからも様々な写真を撮っていきたい。  |
| 16 | いろいろな活動をしている中で、思い出を作るという意味でもよい企画であつたと思えました。   |
| 17 | カメラを貸していただいて、みんながいい写真を撮ろうと、競い楽しんでいたら。   |
| 18 | みんなの思い出をみんなで撮影するのがよかったかなと思う。  |
| 19 | いろんな場面撮影をすることができたので思い出に残すことができた。  |
| 20 | もっと多くの写真を音楽と共に、流すのも感動すると感じたから。  |
| 21 | 班でいろんな景色を見つづけるのは楽しかった。発表ではどの班の写真も青春を感じて爽やかな気持ちになりました。   |
| 22 | みんながいい写真だったけど、写真の雰囲気などが違いすぎて比べるのが難しかった。制限をかけてもいいと思った!   |
| 23 | 実習を通しての目標があると、それを意識しながら行動できると思うのでとてもよいと思った  |
| 24 | 個人的に写真を撮るのが大好きなのでとても楽しかった。みんなの普段見れない顔なども見れてとても良かった。   |
| 25 | いい写真が多かったので、複数枚発表したかった。26 写真タイムをあえて設けてもいいのではないかと感じたため。  |

の協力で無事終えることができた。実習後に行つたアンケート調査では、どのプログラムにおいても高い満足度であつた。その回答内容を見ると、実習を通して学生間の交流が図れたことや協力する大切さをこの実習から改めて学んだようである。また班活動、インシアティブゲーム、野外炊飯活動などは、将来の学校現場で活用できる力を身に付けてほしいという思いで取り入れたプログラムであつたが、グループで行う中での協力する大切さや達成感、楽しさ等といった感想を見る限りそれなりの効果はあつたことがうかがえる。自然体験においては、マリンスポーツを中心

に行つたが、初体験だつた学生が多く活動自体高い評価であつた。今後はそれぞれの体験活動において楽しさばかりでなく、運営・実施方法や安全面に関する指導に重点を置いた内容も考えていく必要がある。また野外活動実習に参加した学生たちが、野外活動の意味や楽しさを理解し、将来の現場で活用できるよう、今後もプログラムの充実を努めていきたい。